

会報 大ヶ谷戸こだなか

発行責任者 大ヶ谷戸小田中町会長 志村 勝
 編集 町会 広報部
 印刷 中溝グラフィック 044(333)2787



町会長 志村 勝

快適な生活環境づくりにご協力を!
 え、早い時期に設置します」と述べていました。今しばらくお待ちください。

新年明けましておめでとう
 昨年は、町会の活動にご協力いただき誠にありがとうございました。本年もどうぞ、よろしく願い申し上げます。

今、大ヶ谷戸地域の結束力が著実に高まっています。今後も皆さまで一緒に力をあわせてさまざまな取り組みを進めていきたいと思います。

さて、昨年、四月一日に又玄寺交差点より宮内の西下橋までの宮内新横浜線の開通式が行われ、木場田中原区長、篠原中原警察署長など多くの来賓をお迎えし、式典が賑やかに執り行われました。

しかし、二ヶ領用水の結接点に信号機の設置が遅れ危険な状況が続いています。すでに予算もつき年度内(平成十九年三月まで)に決定していますが、十一月末に再度、篠原警察署長に早期設置を要請しました。

署長は、「皆さんの要望に応

え、早い時期に設置します」と述べていました。今しばらくお待ちください。

また、九月一日には川崎市総合防災訓練が等々力緑地を中心に行なわれ、小田中町会からも役員の皆様が参加しました。雨の中、本当にご苦労さまでした。地域の避難所に市立聾学校が指定されています。防災対策については関係町会の皆さまと具体的に協議し、取り組んでまいりますのでご協力をよろしくお願い申し上げます。

次に、各部が実施してきた美化活動は、回数を重ねてきてまいりました。多くの皆さまのご協力に感謝申し上げます。

環境へのやさしい町「小田中町会」を目指し、快適な生活環境を守るため、リサイクルの推進などにも取り組んでいきたいと思っております。

なお、恒例の町会行事もしつかり取り組んでまいりますので、ご意見ご要望をお寄せいただきますようお願い申し上げます。

終わりに、皆さまのご家族にとつて、新しい一年が健康やかで最良の年となりますよう心よりお祈り申し上げます。

頑張っています子ども会

会長 渡辺 信夫

中原大会 準備中！
 野球部の活動

野球部は齊藤監督・コーチの指導のもと、部員四十数人で四月から練習が始まり、春夏・秋の中原大会、大戸大会、大ヶ谷戸大会等に参加。秋の中原大会では見事準優勝を、練習以外では、焼肉パーティー・クリスマスなど息抜きの時を持っています。

なお、野球部では部員を募集しています。

★盛大なバザーでした★

六月二十四日、大ヶ谷戸小学校創立四十周年に向けて、『ふれあいバザー』が開催されました。当日は、好天に恵まれ、地域の皆さんや子ども達の歓声で賑わいました。小田中子ども会は「プラン工



可愛い子どもたちも盆踊りの輪の中に

1月 役員新年研修会開催!
2月 第4回美化運動実施!
グラウンドゴルフ大会開催!

11月23日に行なわれたスポーツ大会で好評を得たグラウンドゴルフ大会を、2月25日(日)に大ヶ谷戸小学校校庭で単独で開催することが決定しました。子どもからご年配まで、だれでも楽しめるスポーツです。ぜひ、ご参加を!



白球を追い熱戦を繰り広げたスポーツ大会

十二月三日、小田中町会館で第三十三回を迎えて実施。当日は町会長・役員の方々、それに子ども達約百六十人が参加。子ども達は初めての杵を持って、おぼつかない格好で餅を搗ぎよい思い出ができたことと思います。子ども会の役員・防衛庁のお父さんの協力を得て楽しいひとときを過ごすことができました。

七月二十一日から一週間、夏季行事として三部・防衛庁は豊学校、四部は大戸小学校でNHK放送によるラジオ体操を行いました。一部・二部は残念ながら実施場所の確保が難しく中止となりました。



わが街を眼下に一望

マイタウンハイライト

婦人部

六月十二日、景も楽しませていただきました。夕方のお忙しい時間にもかかわらず三十三人の参加をいただきました。

このように、婦人部は、毎年、町会の諸行事を陰で支えながら、観劇、日帰り旅行なども実施し、親睦交流を図り、楽しく活動を推進しています。

好天に恵まれた「餅つき大会」



プランを担当した役員

【町会行事への参加】

恒例の大ヶ谷戸・納涼盆踊り大会(写真左上)は夏休みで帰省する役員もいるなか、旧役員の出援をいただき、二日間、無事遂行しました。

十二月三日、小田中町会館で第三十三回を迎えて実施。当日は町会長・役員の方々、それに子ども達約百六十人が参加。子ども達は初めての杵を持って、おぼつかない格好で餅を搗ぎよい思い出ができたことと思います。子ども会の役員・防衛庁のお父さんの協力を得て楽しいひとときを過ごすことができました。

【宮内新横浜線開通により】
 ができなくて中止しました。
 楽しかった「友遊ラリー」
 大戸地区育成会主催で十一月二十六日に、等々力催し広場で約五百人の参加で行われ、小田中町会から四十人の子どもが参加しました。クイズとゲームで順位を競う内容ですが、残念ながら上位に入賞することができませんでした。

すみれ会

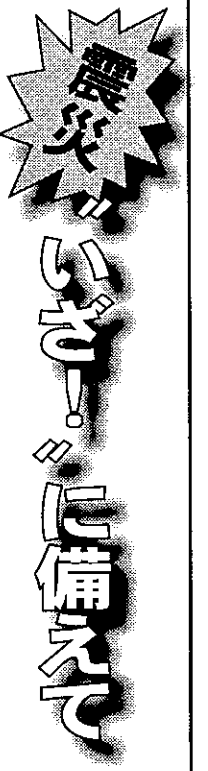
秋のイベントに溢れる笑顔
 副会長 平川 美代

私が小田中町会になり、私も「すみれ会」のお世話になりました。元氣いっぱい活動から、五十二年にな動いています。

この十月十七・十八日、素晴らしい秋晴れのなか、総勢二十人の親睦旅行で伊東温泉巡りをしました。足柄のアサヒビール工場の見学、小田原城内の散策、相模湾の景色を堪能。夜は、カラオケで盛り上がり、お部屋では、あれやこれやお話で笑いが絶えず、夜が更けていきました。これからも、末永く親睦旅行が続きますよう、会員の皆さまのご協力をお願いします。



この十月十七・十八日、素晴らしい秋晴れのなか、総勢二十人の親睦旅行で伊東温泉巡りをしました。



いつ起きてもおかしくない——とも言われている大震災に備えて、避難時の避難の心構え、当町会の避難所、防災訓練での話題などを紹介しましょう。

いつ避難するの？

から非難指示があったとき

どこに避難するの？

大震災が生じて、自宅建物が火災や倒壊の危険がないときは、あえて避難の必要はありません。

- ①建物の倒壊、火災の延焼拡大などで人命に危険を感じ、または生じる恐れがあると想定される時。
②当町会の防災組織から避難の呼びかけがあったとき。
③市(区役所)、消防、警察



市消防団操法大会 大戸分団が最優秀賞に



「やった! 火消し市内」——小田中町会の原増男分団長(写真)が率いる中...

な成績を収めた計十六チームが、日ごろ鍛えた消防操法技術を競うもので、二年に一度開催され、今回で七回目。

「万」に備え防災訓練

いざ、大地震! そんな非常事態に備え、川崎市総合防災訓練が、九月一日の「防災の日」に、等々力緑地で開催されました。

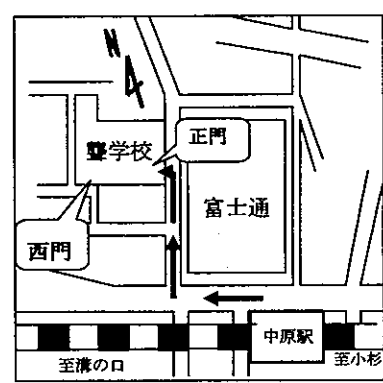
Table with 2 columns: Position (分団長, 班長, 団員) and Name (原増男, 志村守, 志村治, etc.).



「前日、震度3の地震があった直後だったので、激しい雨に打たれながら訓練に励む消防隊や警察関係の皆さんの真剣な表情が、とても印象的でした」(斉藤みどりさん)

災害時の避難は「野学校」へ

- ①必ずガスの元栓を締め電気のブレーカーを切る。
②靴底のしっぺりした靴をはき、落下物から頭部を守る装備をして、切れた電線など危険物に注意する。
③持ち物は必要最小限(とりあえず生活に必要な物)だけにしておく。
④自宅前には避難して安否情報、避難先(連絡先)を表示しておく。
⑤避難には車を使用しない。



野学校の柴田壽直校長は、「地域の皆さんのために、備蓄品の充実、備蓄倉庫の整備、拡充を図り、災害時には、正門・西門、体育館を開錠しますので、安心してご利用いただけます」と快く協力を約束してくださいと快く協力をお願いします。

「昭和三十七年に大戸館を開店しました。当時は車がなく、配達はずべて自転車でした。砂利道で転倒したこともありました。しかし、地元の方々に愛用され、四十五年頃は繁盛し、伊藤市長、次の高橋市長をはじめ、市内の多くの先生方も大勢来てくださり、楽しい思い出がいっぱいあります」と昔懐かしく話されました。

航空飛行士で戦闘 星さんは昭和十五年に徴兵され、横須賀海兵隊航空隊に入隊、以来終戦まで航空飛行士として活躍されました。

「昭和三十五年入隊、北海道美帆海軍航空隊で教育されたあと、中国大陸の揚子江を五千吨級の船で上っていく。その広大さは見事なもので忘れられない。その後、太平洋戦争となり、インドネシア、ボルネオ、スマトラ、サイゴン、セレベスなど、東南アジアを戦場で駆け巡る。そして九死

「昭和三十七年に大戸館を開店しました。当時は車がなく、配達はずべて自転車でした。砂利道で転倒したこともありました。しかし、地元の方々に愛用され、四十五年頃は繁盛し、伊藤市長、次の高橋市長をはじめ、市内の多くの先生方も大勢来てくださり、楽しい思い出がいっぱいあります」と昔懐かしく話されました。

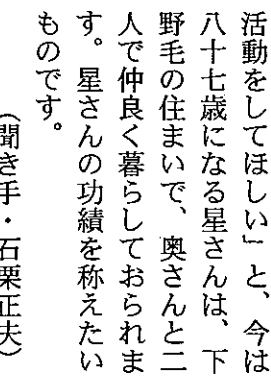
「昭和三十七年に大戸館を開店しました。当時は車がなく、配達はずべて自転車でした。砂利道で転倒したこともありました。しかし、地元の方々に愛用され、四十五年頃は繁盛し、伊藤市長、次の高橋市長をはじめ、市内の多くの先生方も大勢来てくださり、楽しい思い出がいっぱいあります」と昔懐かしく話されました。

「耳をかたむけたい」 町の人たちの声 元・大ヶ谷戸小田中町会 第四部副会長 星直次さんに聞く

「一生を得て帰国しました」と、生々しい戦争の思い出は、星直次さんに聞くと、聞きませぬ。

「今は地元とかよそ者」といった分け隔てはなく、みんな仲良くやっているように大変よいことだ。ただ、市の行政と地元がもっと協力体制をとって、町民のことを考えた活動をしてほしい」と、今は八十七歳になる星さんは、下野毛の住まいで、奥さんと二人で仲良く暮らしておられます。星さんの功績を称えたいものです。

子ども達に戦争体験を語る星さん(平成6年1月、タンポポ学校教室で)



「昭和三十七年に大戸館を開店しました。当時は車がなく、配達はずべて自転車でした。砂利道で転倒したこともありました。しかし、地元の方々に愛用され、四十五年頃は繁盛し、伊藤市長、次の高橋市長をはじめ、市内の多くの先生方も大勢来てくださり、楽しい思い出がいっぱいあります」と昔懐かしく話されました。

編集後記

○会報 大ヶ谷戸こだなか第十六号が刊行されましたのでお届けします。

「昭和三十七年に大戸館を開店しました。当時は車がなく、配達はずべて自転車でした。砂利道で転倒したこともありました。しかし、地元の方々に愛用され、四十五年頃は繁盛し、伊藤市長、次の高橋市長をはじめ、市内の多くの先生方も大勢来てくださり、楽しい思い出がいっぱいあります」と昔懐かしく話されました。